

お知らせコーナー

◆菅生小学校 TEL977-0914

☆すがおふれあいフェスティバル
11/23(木) 9:00~12:15

1年〔秋の草花のお店やさん〕2年〔お店・踊り・おみこし〕3・4年〔グランドゴルフ・竹とんぼ・こまわし・手話など〕5年〔染め・紙すき〕6年〔大昔のくらし〜未来体験〕ひまわり〔和太鼓〕バトンクラブ〔バトン演技〕

☆PTA バザー
11/23(木) 12:15~15:00

◆稗原小学校 TEL976-4557

☆親子カーニバル
11/19(日) 8:50~12:00

☆親子ふれあいバザー
11/19(日) 12:30~14:30

今年のバザーは、新しい企画も用意してお待ちしています。ぜひ、ご参加ください。

◆宮前市民館菅生分館 TEL977-4781

☆成人学校「毛筆で書く楽しみ」
1/23~3/27 14:00~16:00 毎回火曜日 全10回 30名 受講料 ¥4000 教材費 ¥4000
〔申込み〕1/18(木) 10:00~ 菅生分館で

☆高齢者教室「趣味と健康で生き生き人生再発見」
1/16~3/27 10:00~12:00 毎回火曜日 教材費 ¥800 全10回 概ね60歳以上の方 40名
〔申込み〕1/9(火) 10:00~ 電話可

工作教室のお知らせ

○11/25(土) クリスマスリースの材料探し
自然あふれる黒川青少年活動センターへ
行きます。10:00~15:00 交通費

○12/9(土) クリスマスリースづくり
黒川で収穫した材料でリースづくりします。
10:00~12:00 材料費 200円
会場 菅生分館

※3日前までにお申し込みください
〔対象〕小学4年~6年 20名
〔申込〕菅生分館・蔵敷子ども文化センター
菅生分館 TEL (977) 4781
蔵敷子ども文化センター TEL (977) 2577

保護者の方も地域の方も見に来てください

◆菅生子ども文化センター TEL976-0444

☆焼きイモ大会 11/18(土) 14:00~15:00
各自でおイモ持参してね
☆ミルクレープづくり 11/22(水) 14:00~15:00
前日まで申込み 会費 ¥100

☆遊びの広場 11/25(土) 14:00~15:00
焼きリンゴ 前日まで申込み 会費 ¥100
☆ミニホッケー教室 11/17・24(金) 15:00~16:00
☆お楽しみ会 12/16(土) 14:00~16:30
各クラブの出し物、ゲームなど

◆蔵敷子ども文化センター TEL977-2577

☆工作教室「リースの材料探し」11/25(土)
青少年野外活動センターへ
※詳細は「工作教室のお知らせ」で

☆子どもフェスティバル&チャリティフリーマーケット
12/9(土) 10:00~14:00
子どもフェスティバル 10:00~11:30
フリーマーケット・模擬店 11:00~14:00

☆子ども映画会&だがしやさん 12/13(水)
だがしやさん 14:30~
子ども映画会 15:00~

☆「クリスマスケーキ」づくり 12/16(土)
14:00~16:30 費用(ケーキ代) 申込み制

第13回宮前区教育を語るつどい
主催:宮前区地域教育会議

変化する家族関係と 学校・地域への影響

~私たちの家庭は大丈夫!??~

基調講演:聖マリアンナ医科大学助教授
神経精神科医 渡辺直樹

12月9日(土) PM1:30~4:30 宮前市民館

分科会 「子育てって楽しい?」 親子関係を見直してみよう
「よその子を叱れますか?」

我が家の常識は世間の常識?

「お父さん出番ですよ」愛されるお父さんとは・・・
「家庭から地域へ」 楽しみながらできること

基調講演のあと、グループに分かれてディスカッションします。解決の糸口をさぐる場になるよう、活発なご意見を!

問合せ・申込みは 宮前市民館へ
11月16日(木) 10:00~電話で
※保育(1歳半から未就学児先着 15名)
保育を希望する方は申込み時にお伝えください。
宮前市民館 TEL (888) 3911

菅生中学校区地域教育会議ニューズレター (25)

2000年11月10日(金)

発行:菅生中学校区地域教育会議
編集:広報委員会
当番校:菅生中学校 TEL 977-8787
事務局:コミュニティサポートネット内
TEL 979-1303 FAX 979-1302

どらりあんぐる菅生

http://www.linkclub.or.jp/~sugauchi E-mail:sugauchi@air.linkclub.or.jp

おじいちゃん おばあちゃん 子どもたち そしてお母さんたちの ふれあいゲートボール教室

子どもたちから元気がもらえた!

10月28日(土)、ふれあい委員会主催恒例の『ふれあいゲートボール教室』が今年も行なわれました。

曇り空のもと、菅生ヶ丘自治会館横のゲートボール場に地域のおじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、子どもたち総勢約40人が集合。

今年で3回目を迎えたこともあって、ルールやゲームを知っている子が、友だちに嬉しそうにアドバイスする姿もありました。また、初めて参加した子や、ルールがよくわからない子に対しては、地域のベテランおじいちゃん・おばあちゃんが、孫の面倒をみるようにていねいに教える姿がほほえましく感じ

られました。

参加した子どもたちは、「初めはルールを知らなかったので、緊張した。2回、3回とゲームをやってると、楽しくなってドキドキしながら順番を待っている」と、インタビューに答えながらも目はボールに。

審判をしたり、アドバイスをしたりと忙しいおじいちゃんは、「半年前にこの教室の依頼があって、ゲートボール仲間と子どもたちが楽しめる方法を話し合ってきた。子どもたちとふれあって、元気をもらっている」と、目を細めながら話していました。



また、この教室を企画したふれあい委員は、「回を重ねるとつれ子ども達は楽しくやっているのを見ると嬉しい」と、顔をほころばせ、毎年参加しているあるお母さんは「おじいちゃん、おばあちゃんと知りあえたので、今度は子どもたちがお招きして歌をうたったりする会を企画してほしい。」

再生委員会

ただいま進行中

平成6年度(1994年)にスタートした菅生中学校区地域教育会議。社会の多様な変化に備え、そのあり方そのものや活動を根本から見直そうと再生委員会を立ち上げ、検討中です。

再生委員会第1回目(9/22)は、工藤議長から「2002年に学習指導要領が変わり、学校教育の変革を求められていくなかで、地域からの教育改革が必要になってくる。

学校と住民が対等な立場で教育を考え、支え合う関係をつくっていかないか。例えば、地域教育会議が学校のお手伝い的存在ではなく、対等な立場で教育を考えるスタンス。話し合いを対等にするために住民も学習し、学校からも情報を提供してもらい、地域教育会議が責任を取っていく。」という趣旨の提案がありました。

第2回目(10/20)は、稗原小と菅生小の先生も参加し、議論白熱。「学校が閉鎖的というが、学校はできるだけ情報を提供している。学校が開かれていないことを具体的に知りたいたい」「行政や学校が情報提

供しているものは、受け手からすると出したいものだけ出していると感じる。例えば、中学生の『制服』については、『標準服』が正しいが、このことは積極的に情報提供されていない」といったやり取りから、学校の問題、親の問題に関する忌憚のない意見が出され、「地域教育会議が親や教師、住民が率直な意見を出し合える場にしたい」「教育の内容など学校運営に関しても、教師と共に親や住民と一緒に考えていきたい」など、地域教育会議が教育に関するあらゆる問題を話し合う場であるという点で合意に至ったところです。

地域の取り組み

宮前

すみれの会

菅生中学校区にはさまざまな自主グループが活動しています。子育てや教育・環境・高齢者問題などの現代的課題から油絵や詩吟という文化芸術など、その数は200近く。『とらいあんぐる菅生』でも、平瀬川を中心とした「うるおいのあるまちづくり」の記事を時々目にされると思います。こうした活動はまさに地域の財産ですね。今回は、痴呆性老人をかかえた家族のグループ「宮前すみれの会」についてご紹介します。

犬蔵2丁目、尻手黒川道路をたまプラーザ方面に入った住宅街の中に「すみれの家」があります。10月のある日、たずねてみました。

「すみれの家」は、平成7年から会に参加し、現在代表を務める鈴木雅子さんが、夫の母親が痴呆になり老人ホームに入所したのをきっかけに、それまで母親が住んでいた家を会のために提供したものです。毎月第2、第4火曜日の活動日にオープンしています。

その日、夫の母親Aさんと共に参加したBさんは、とても明るく優しい感じの方で、痴呆のAさんとのすてきな関係づくりをしてい

る感じが感じられました。子どもが好きというAさんは、ボランティアの若い母親たちや赤ちゃんに囲まれ、とても楽しそうでした。宮前保健所の保健婦さんも、家族の会のよき理解者であり、アドバイザーとして毎回スタンバイしています。

痴呆のお年寄りを抱えた家族にとって「すみれの会」は、同じ悩みや経験をもつ仲間が集うことで、悩みや不安の解消に大きな役割を果たしているようです。「介護を、家族だけで抱え込まないで、皆で考え支え合っていきましょう」という趣旨で始まったのが「すみれの会」。「これから

の介護は、地域で支え合っていかなければいけないのよ」という会員の声のとおり、少子化が進む21世紀の老人介護には地域の支え合いが必要不可欠になるでしょう。誰にでも「老い」は必ずやってくるもの。「すみれの会」のようなこうした活動がどんどん広がってほしいものですね。



すみれの家

すみれの会活動日

- 第2火曜日 10:00~14:00 すみれの家
- 第3火曜日 10:00~12:00 菅生分館
- 第4火曜日 10:00~12:00 すみれの家



痴呆性老人介護教室

- 第1回 11月11日(土) 14:00~15:30
☆痴呆性老人の対応と介護者の心のケア
講師：聖マリアンナ医科大学東横病院 今井 幸允 先生
- 第2回 11月21日(火) 10:00~11:30
☆介護保険の利用法
アドバイザー：川崎市痴呆関係団体連絡会 代表 柿沼 矩子 氏
- 第3回 11月28日(火) 13:30~15:30
☆お年寄りの「食」(実習)

※いずれも菅生分館で

問合せ 宮前保健所健康課 TEL (856) 3264
申込み すみれの会 / 鈴木雅子 FAX (976) 0117

2002年総合的な学習の時間への取り組み

その2

菅生小

2002年から学習指導要領が変わり、小学校から高校まで「総合的な学習の時間」が週に2,3時間の割合で盛り込まれる。社会の大きな変化に対応し、子どもたちの「生きる力」を育むためである。

ふれあい・まなびあい・さあ、チャレンジ

菅生小学校では、「豊かな心で力を含ませ自ら進んで行動する子」というテーマで、また、児童には「ふれあい・まなびあい・さあ、チャレンジ」というわかりやすくて様々な取り組みがされている。

例えば、3年生は総合的な学習の入門期としてとらえ、学び方やものの考え方を身につけ、問題解決に向けての主体的、創造的な態度を育成することを目指している。具体的な実践として、運動会では、幼稚園児との交流種目について話し合ったり、一緒に練習したりなどの異年齢交流を行った。また、半年かけて草取りや水やりをしながらサツマイモを育てたり、こども文化センターへ行き、説明を聞いたりインタビューをしたりなど、新しいことにたくさんチャレンジしてきた。最初は戸惑っていた子どもたちも回を重ねていくうちに、課題の中で自分なりの探求心が芽生え、「自分が何をしたいのか」を自覚し、活動ができるように育ってきている。

また、6年生では、実行委員制を設け、一人一役以上受けもち、年間の行事や活動に取り組んでいる。運動会では種目決めから、練習計画、準備、片づけまですべて行い、自分たちが運動会を盛り上げ、成功させようと主体的に取り組んだ。また、社会見学の「鎌倉見学」では、鎌倉の歴史や町について事前に調べ、行きたいコースを自分たちで考えグループごとに見学の計画を立てた。見学後、鎌倉絵本やパンフレットを作り、11月の「菅生ふれあいフェスティバル」で発表も行う。7月には、夜、校庭に集まり、青少年科学館の職員を講師に招き、星の観察も行っ

た。一人ひとりが主役になり様々な活動に取り組んできた結果、クラブ活動では自主的に計画し下級生を支え、各委員会活動でも、学校生活を楽しく潤いのあるものにしてとがんばるなど、最高学年としての自覚が芽生えてきている。

学校全体では平成7~8年度に始まった環境教育を柱にし、地域の美化活動を「クリーン作戦」と称し、月1回環境委員の児童を中心に、登校途中などにゴミを拾い学校で処理したり、年1回、児童が町に出て行き、地域の人たちとともに分担して清掃活動を行っている。前号の『とらいあんぐる』でも紹介した、4年生以上の有志約70名で結成している「菅生合唱団」の活動では、やりたいと思う児童が自ら進んで入会してくるため、目標ももちやすく、音楽面だけではなく、心の育ちという意味でも期待がされている。

菅生小近隣は「とんもり谷戸」や「平瀬川」などの自然にも恵まれ、また、江戸時代より続いている「初山の獅子舞」は、菅生小の児童によって伝承されており、地域素材としては事欠かない。このような地域の財産を大切に、「総合的な学習」にも生かしていこうと菅生小では考えている。また、より、地域との関係を深め、連携を図っていくためにも、学校が地域に出て行くだけではなく、地域の人たちももっと学校に入って来れるようにと、校舎内に「愛鳥館」「ふるさと館」「郷土資料館」をつくり、誰でも見学できるように公開の準備を進めている。

菅生中

文化教室

ふれあい文化フェスティバル

地域から

おじさん・おばさんがやってきた



美しい夢を そしてきらめく歌声を 共につくりよう 奏でよう

今にも雨が降ってきそうな空模様。菅生中学校にはそれを吹き飛ばすような活気があふれていました。10月22日の日曜日の午前、菅生中学校は、ふれあい文化フェスティバルの一環として「文化教室」を開設。地域の方々を講師に招いて、体験学習講座に中学生が学年の枠をはずして参加しました。わら縄づくりをはじめとするさまざまな手工芸、太鼓や大正琴に花笠音頭、英会話にパソコン、絵本の楽しみ方から戦争体験談、そして地域を歩いて見つける文化財探しやまちづくりのお話、手話やお年寄り体験など25にもおよぶ講座が行われました。この日、中学の先生方はもっぱらサポート役やコーディネーター役で、講師の方々

と息のあったチームワークで、子どもたちに接していました。1講座10人から20人の生徒たちは見知らぬ講師を前に初めちょっと緊張した面持ちでしたが、すぐに打ち解け、体験学習に熱中。2時間半があつという間の様子でした。

高齢者疑似体験教室に参加した生徒たちは、「足が思うように曲がらず歩くのが大変だったし、怖かった」「将来、自分もあのような体になるのかなという体験になった」「この体験を生かしてお年寄りに接したい」などと話していました。ある講師は、「中学生はシャイ。でも、素直に感動する子どもたちに接することができて嬉しい」と感想を話していました。